

2018～2019 年度国際ロータリーのテーマ

インスピレーションになろう

●会長 白石 繁
●幹事 村瀬 直久

No.1655 平成 31 年 04 月 03 日 第 36 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30～

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <http://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org



インスピレーションになろう

■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■熊本東南RCの歌 (ソングリーダー 鷺山法雲)

「Joyful And Good」
「未来」



■来訪者紹介 (会長 白石 繁)

大坂北RC 田村 隆 様
米山奨学生 李靖清 さん

■県外の来訪者からの一言

大坂北RC 田村 隆 様



■今月の誕生祝い

【会員】

村瀬直久 4月28日
杉本整哉 4月15日

【配偶者】

潮谷義子 4月 5日
岡本啓子 4月22日



■米山奨学金の授与

米山奨学生 李靖清 さん



■会長の時間 (会長 白石 繁)



■幹事報告

(幹事 村瀬直久)



1)
河野誠男 青少年奉仕部門長、谷光純弥 地区ローターアクト代表より、2018～2019年度国際ロータリー第2720地区ローターアクト「ロータリー家族清掃活動」開催の案内。

開催日時 2019年5月5日(日)
9時集合、11時解散予定
集合場所 熊本会場・・・白川公園

2)
公益財団法人 米山梅吉記念館より、館報春号の送付。

■今後の予定

5月	5月12日(日)	会長ノミニ 研修セミナー	大分県 大分市	ホルトホール大分
松本一也				
6月	6月8日(土)	熊本平成RC創立30 周年記念例会	熊本県 熊本市	ANAクラウンプラザホテル熊本 ニュースカイ
案内中				

■ロータリーの友4月号の紹介

(会報・雑誌担当委員 松岡泰光)



■委員会報告

(青少年奉仕担当 宮川義行)



アクトは5月5日に清掃活動を予定しています。
詳細は決まりしだい後日お伝えします。

■出席報告

(出席・プログラム担当委員 福井学)



月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率 (%)
03月20日	44 (免5) 39	36	0	36	92.31
04月03日	44 (免3) 41	34			82.92

☆退 会

☆出席免除

03月20日 島村徹男 住江正治 鷲山法雲 古庄浩二
河岸彦治

04月03日 島村徹男 住江正治 志賀重人

☆欠席者 3名

03月20日 西村陽介 渡邊一弘 潮谷愛一

今度の100%出席の日は 4月24日です。

■スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員 緒方公一)



◎村瀬直久 10,000円

誕生祝いありがとうございました。もう歳を数えたくありません。

◎宮川義行 5,000円

今月より中国桂林出身の米山奨学生 李靖清さんのお世話を熊本東南ロータリークラブとしてする事になりました。皆さんよろしくお願ひします。学園大学院2年生で、1年間のお付き合いになります。カウンセラーは私と、女性の松岡会員と、山田会員の3人です。翁君はすでに東京のエーザイに就職しました。靖清さんも1年後には無事就職できるよう皆さんのお力をお願いします。土曜・日曜の大分の研修に参加された皆様、お疲れ様でした。来週はいよいよ35周年です。皆様お疲れ様です。

◎沼田敏雄 5,000円

①4月1日(日)八代から219号線で人吉まで、桜並木を見学ドライブ致しました。途中、球泉洞手前の道端で野生ザルを見ました。驚きでした!

②今日は娘と孫娘2人、保護者として例会に参加します。(彌富さんとお逢ひしたいと云う事です)

◎内田信行 3,000円

3月30日・31日、地区研修・協議会お疲れ様でした。最後の食事を入れて5次会まで1時30分頃帰ったわりには翌日の研修・協議会に真剣に取り組む姿に感動しましたので、スマイルします。

◎松本繁 3,000円

いよいよ35周年行事が迫ってきました。無事に成功しますよう皆様のご協力を心よりお願い致します。

◎彌富照皇 2,000円

米山奨学生 李靖清さんを歓迎致します。日本で一杯学んで一杯楽しんでください。

■クラブフォーラム

(実行委員長 松本繁)



創立35周年について

■点鐘

編集者 松岡泰光

母子の健康月間

毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人。その原因は、栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりです。

予防可能な原因で母と子どもが命を落とすことなどあってはならないと、私たちロータリー会員は考えます。すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして、出産で命を落とす母親がいなくなり、子どもがすくすくと成長できるように、私たちは支援活動を行っています。

ロータリーはこんな活動をしています

教育、予防接種、出産キット、移動クリニックなど、ありとあらゆる方法で母子の健康を推進しています。また、女性を対象に、HIV母子感染の予防、母乳による授乳、病気の予防に関する教育も行っています。



清潔な出産キットの配布、安全な出産方法に関する保健従事者の研修など、妊婦が安全な環境で出産できるよう支援しています。



母乳に関する母親への指導、予防接種と定期健診の推進、防虫加工の蚊帳の配布など、赤ちゃんを守るための支援をしています。



適切な研修を受けた医者、看護師、助産師、医療従事者によるケアをすべての女性が受けられるよう支援しています。



日本とブラジルのクラブがロータリーの補助金を利用して、新生児の命を救う機器を病院に提供しました。

救命救急診療

日本の姉妹都市との絆、ブラジルの新生児を救う

執筆：Vanessa Glavinskis 写真：Robert Gill

陣痛がはじまり、妊婦はおびえています。予定日は3カ月も先。一番近い病院は48kmも離れており、生まれても体重は1,000gに満たないでしょう。

問題はもう一つ。

病院の新生児集中治療室には保育器が7台しかなく、満員になると赤ちゃんを別の病院に搬送する必要があります。命をつなぎとめたとしても、両親は数カ月も長距離の病院通いを余儀なくされます。

ブラジル・リベイラバレーの病院（Dr. Leopoldo Bevilacqua Regional Hospital）でも、多くの妊婦が同じような困難に直面しています。設備が不足すると、すでに危険な状態にある新生児をほかの病院に搬送しなければなりません。この影響は、サンパウロ州の高い乳児死亡率に表れています。

「ここには2つの現実があります。私立病院の費用を払える人と、払えない人です。払えない人は、24もの町をカバーしている州立病院まで長距離を往復しなければなりません」。Registro-Ouroロータリークラブ（ブラジル）のプロジェクトを主導したりナ・シミズさんは、このように話します。

そこで同クラブとRegistroロータリークラブは、岐阜県中津川の2つのロータリークラブとパートナーとなり、グローバル補助金プロジェクトを実施しました。ロータリアンは172,500ドル（約1,900万円）を集め、新生児の集中治療室に保育器5台を追加。これにより、それまでの倍近い新生児の受け入れができるように

なりました。2013年には新生児129名、プロジェクト完了後も毎年、新生児約220名の命を救っています。



新生児の集中治療室に5台の保育器を追加したことで、それまでの倍近い新生児の受け入れが可能になりました



ロータリアンは、換気装置、ビリルビン測定装置、ベビーベッド、血圧・心拍数モニター、新生児黄疸光線治療器も提供しました



私立病院の費用を払えない人は、24の町をカバーしている州立病院まで長距離を往復しなければなりません

また、換気装置5台、ビリルビン測定装置1台、ベビーベッド3台、血圧・心拍数モニター5台、新生児黄疸光線治療器1台も設置したほか、住民を対象に出産前ケアのワークショップの推進にも貢献しました。この活動は、医療サービスや出産前ケア・母乳の重要性についてあまり知らなかった遠隔地の妊婦にとって、大きな支えとなりました。

ロータリークラブは、出産前ケアと母乳の重要性を伝える活動も支援しました

中津川のロータリアンは以前、補助金で困難を経験したことから国際活動の支援を断念していましたが、今回の経験が大きな転機となりました。この変化を導いたのは、レジストロ市と中津川市の「姉妹都市」提携です。



双方のロータリアンは、定期的に交流して友好を深めてきました。だからこそ日本のロータリアンも、自分たちの資金が有効に使われると確信できたのでしょう。日系人で日本語を流暢に話せるシミズさんの存在も、信頼関係とコミュニケーションの構築に大きく寄与しました。

ここには37年かけた友情と絆がある。中津川ロータリークラブの原満夫さんは、そう述べました。

倫理的ジレンマ：あなたならどうする？

(資金の使い道)

投稿日：3月26, 2019

回答者：日本のロータリー財団地域コーディネーター (RRFC)

日本では現在、海外労働者の受入拡大を2019年4月に控え、自治体がさまざまな状況を想定した準備を進めています。また、世界で深刻化している難民問題を受け、日本での受入れに関する議論も盛んになっています。どのような状況になったとしても、地域社会で大きな動きがあった場合は、地元ロータリークラブの出番となることが考えられます。



今回の「倫理的ジレンマ」では、このような世界の情勢変化の余波を受けたクラブでのジレンマを取り上げました。

「Aさんのクラブでは、海外文化交流を通じた平和推進のための奨学金を地元高校生に提供するため、募金活動を行いました。Aさんが担当者となり、会員みんなで募金しました。

資金が集まり、正式に地元高校で公表する段階となったとき、地元の移民支援団体から連絡が入りました。それは、紛争から逃れるため、家族みんなで日本にやってきた学生の支援に協力してほしいというものでした。その学生は地元高校に編入しましたが、まともな学生生活を送るための資金援助が必要でした。

そこで、クラブ理事会で話し合いが行われ、その結果、意見の相違はあるものの、この援助が平和に関連し、深刻なニーズに応えるもので、地元高校生の支援であることに変わりはないという理由から、募金で得た資金をこの学生の支援に充てることを決定しました。

しかし一部の会員は、「海外文化交流を通じた平和推進」という当初の目的とは異なる資金の使われ方に疑問を抱いています。また、これでは当初の目的に共感して募金してくれた人たちの期待を裏切る可能性があると感じています。

募金活動を担当したAさんは、苦情を言う人はいないだろうと思いつつ、資金の高い透明性を保つことが必要だと感じています。また、今後の募金活動で不測の事態に対応するために何ができるかと思案しています。このようなとき、あなたならどうしますか？」

第1ゾーン RRFC

第2800 パストガバナー

池田 徳博 (鶴岡西ロータリークラブ)

まずは、クラブ全体で話し合い、従前の募金の目的の変更について協議し、仮に目的変更するとした場合、その経緯を説明する内容のクラブニュースを発行し、会員に周知のうえ、理解を図るということではどうでしょうか。

第2ゾーン RRFC

第2750 地区パストガバナー

舟木 いさ子 (東京白金ロータリークラブ)

募金活動をするときは、その使用目的と給付対象を明記して行うものです。それを変更することは、その趣旨に反することになり、募金協力者への期待を裏切ることに繋がります。

今回の募金活動の目的は「海外文化交流を通じた平和推進のため」で、「地元高校生」が対象でした。しかし、クラブ理事会の話し合いの結果で、「紛争地域からの難民で、地元高校に編入したが経済的に困窮している高校生の生活を援助する」となると、「地元高校生」という対象は同じであっても、その使用目的は、当初の「海外文化交流を通じた平和促進」とは著しく異なってしまいます。

募金で集めた資金の目的外使用を一度認めてしまうと、ロータリークラブ全体の募金活動の信頼性が失われてしまう可能性があります。このため、使用目的や給付対象を変更することは避けるべきであると考えます。

第3ゾーン RRFC

第2710 地区パストガバナー

田村 泰三 (山口県・柳井ロータリークラブ)

Aさんのクラブで話し合っただけで結論を出すことが原則であると思います。日本の学生は世界の情勢を十分に把握していないと思います。移民支援団体は世界の状況をよりよく知っていると思われると思います。この人たちからも情報をいただいてクラブの意見をまとめるとうよいと思います。

このようなことは海外文化交流を通じた平和推進につながると思います。人道支援は小さなことをつなぎ合わせて多様性のある支援が必要だと思います。そのような経験や理解を積み重ねて、多くの人たちが成長していくことが重要であると思います。

ロータリー財団は、アカウントビリティと資金の透明性に基づいて慈善団体の格付けを行う団体「チャリティナビゲーター」により、10年以上連続で最高評価を受けています。高い評価を得ることができるのは、各地のクラブによる賢明な資金使用があればこそです。クラブでは、地域社会のニーズに最善のかたちで応えようと、会員が知恵を寄せ合って活動しています。

これまでに当ブログでは、日本のロータリーコーディネーター (RC) とロータリー公共イメージコーディネーター (RPIC) からのご回答を含む「倫理的ジレンマ」も発行しました。今回の案件と合わせてご覧ください。

>> [倫理的ジレンマ：あなたならどうする？](#)

(候補者の選出、RC)

>> [倫理的ジレンマ：あなたならどうする？](#)

(クラブへの影響、RPIC)

(執筆担当：加藤まさ)